

子供たちと、ともに走り ともに笑い ともに泣き

高砂イレブンは、設立以来40年間子供たちの夢を応援し、
これからも応援し続けます。

A n n i v e r s a r y



TAKASAGO ELEVEN
since 1984

高砂イレブンフットボールクラブ設立40周年記念誌



For GAMES

ゲーム

常に全力でゴールをめざす。
勝利をめざす。
それがサッカーという
僕が大好きなゲームに対する
リスペクト。



For REFEREES

レフェリー

子どもたちもひとりひとりっばな選手。
しっかり目を見て握手する。
いいゲームをしようね。

For PLAYERS

選手

サッカーには敵はいない。
対戦相手は敵じゃない。
自分たちの力をためし、
サッカーを楽しむための大切な仲間。
試合のはじめに相手の目を見て
しっかりと握手する。
リスペクトの証^{あかし}として。



For COACHES

コーチ

子どもたちに会う前には、
いつも自分を振り返る。
子どもたちは大切な相手。
ちゃんとしていないとはずかしい。
スマイルOK!

リスペクト

大好きなサッカーを
もっと楽しむために、
互いを「大切に思うこと」。
「フェアで強い」
日本サッカーを目指して。

日本サッカー協会、Jリーグは、
リスペクト・プロジェクトを
推進しています。



For SUPPORTERS

サポーター

コーチはコーチに任せる。
レフェリーはレフェリーに任せる。
プレーは子どもたちに任せる。
私たちは応援し、見守る。

大切に思うこと

— RESPECT PROJECT —

財団法人 日本サッカー協会の公式ホームページ
<http://www.jfa.or.jp/>

財団法人 日本サッカー協会
〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷 3-10-15)JFAハウス
TEL.03・3830・2004 FAX.03・3830・2005

Jリーグの公式ホームページ
<http://www.j-league.or.jp/>

社団法人日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)
〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷 3-10-15)JFAハウス9階
TEL.03・3830・2006 FAX.03・3830・2007



DREAM

J.LEAGUE

目 次

1. 挨拶 高砂イレブンフットボールクラブ 会長 佐々木 一吉
2. 祝辞 草加市サッカー協会 会長 松澤 輝雄
- 草加市サッカー協会第四種委員会 委員長 平川 勝博
新田フットボールクラブ 代表
- 第十九代 高砂小学校 校長 石崎 明子
- 高砂ヤンキース スポーツ少年団 会長 小澤 敏明
- 草加市スポーツ少年団 本部長 大野 美江子
高砂バスケットボール スポーツ少年団 代表
- 高砂イレブンフットボールクラブ 役員・コーチ
- | | | |
|-------|-------|-------|
| 植竹 正敏 | 上岡 貴光 | 熱田 創 |
| 高木 和広 | 中村 隆廣 | 篠原 章稔 |
3. 40年の歩み
4. スタッフ紹介
5. 年間参加大会
6. 最近の主な大会成績
7. 年度別OB会員集合写真
8. 会員集合写真
9. 編集後記

御 挨 拶

私の中の40年の歩み

高砂イレブンフットボールクラブ 会長 佐々木 一吉

あっという間の40年。私がまだ、バリバリの35歳の時に設立されました。初代中根会長、ヤンキースの小澤会長の音頭取りで、高砂小学校を軸としたサッカーチームが誕生しました。その当時は特定のコーチも居ず、ど素人の集まりでした。最初の頃は、息子の面倒を見て貰って、日曜日をノンビリ過ごせればと思っていましたが、副会長を仰せつかってしまい、仕方無しにグラウンドに足を運んでいました。そんな私の考えをよそに、集まった130人の子供達は真剣そのもので、澁刺と走り廻っているのを見るにつけ、いい加減な気持ちでは居られない、居てはいけないと思うようになって行きました。そして少しずつ、お父さん達の手伝いも増え、あちこちの試合に行っては、他所のチームの練習を真似たり、工夫を凝らしつつ、子供達と育った、いえ育てられた気がします。狭いグラウンドでは、130人が練習するのは無理で、4.5.6年生は5.6人のお父さん達でワゴン車に分乗させて、色々なチームのグラウンドに行き、そのチームに混ざって練習させて貰いながらの、まるでジプシーそのものでした。この先ちゃんとしたグラウンドで練習が出来るのか、不安でいっぱいでしたが、自分達大人が何とかしなくてはと言う意気込みだけは有りました。それから、2年目にやっと高砂小学校のグラウンドを使わせて貰えるようになりました。そして、高砂小学校が60周年を迎えるあたりで、新校舎を建設する為に、校庭が使えず、住吉団地の跡地(現在の防災広場)での練習を余儀なくされましたが、今思うと、それはそれで懐かしい思い出の一齣では有ります。さて、色々な難題に直面しながら、ここまで来ましたが、特に子供達を冒瀆するような言動を繰り返すコーチを罷免した事も有ります。又、マネージャーの立場を良い事に、自分に都合の良い解釈で、学年を振り回し、チームワークを乱した者にも辞めて貰いました。これからも、そう言う自分本意の者が居れば、糾弾して行きたいと思えます。

私は子供の頃から、イジメに対しては見過ごしの出来ない質なので、他人の喧嘩を良く買っていました。損な性分だと家内にも叱られますが、どうしようもないんです。まだまだ語り尽くせない負の部分は、数限り無く有りますが、きりがないので、この辺で止めときましょう。

そして高砂イレブンの二大イベントの一翼を担っているサマーキャンプ。今年も80人近い参加者とともに、志賀高原に行って来ました。他所のチームの子供達が羨ましがる程の中身の濃さです。胆試し、寸劇大会。それに水を入れた風船での疑似スイカ割り大会。それに大人チームも含めた4チームでのサッカーの試合。子供達の生涯を通しての光輝やく思い出になること請け合いです。

我々が目指すのは、楽しいサッカーです。加えて仲間を思いやるドンマイ(和製英語で気にするなと言う意味)の心です。たとえサッカーが上手くても、チームワークを乱す者は高砂イレブンにはいらぬ。親もしかりです。高砂イレブン出身で、活躍している者は親も子供も謙虚で、仲間を見下したり、チーム内の子供達に対して暴言を吐くような親子は、ただの1人もいません。兎に角、今もこれからも人を、仲間をリスペクト出来る子供を育てたい。それが高砂イレブンのコンセプトで有り、ポリシーです。

10年目、20年目、30年目、そして40周年目の節目に居られる事への意義を考える時、今まで関わって頂いた膨大な数の関係者の皆さんへの感謝しか思い浮かびません。こんな私のような取るに足らない人間に対して、変わらぬ真心で接して頂き有り難い限りです。

そして50周年に向けてイレブン一丸となり、盛り立てて行こうではありませんか。長々とお話をさせて頂きましたが、これをもちまして、40周年に対しての挨拶とさせて頂きます。

祝 辞

高砂イレブン設立40周年によせて

草加市サッカー協会 会長 松澤 輝雄

この度、高砂イレブンフットボールクラブ様が、チーム設立40周年を迎えられました事は、誠におめでとうございます。

草加の地におけるスポーツ少年団のサッカーの歴史は、50年も前にさかのぼります。そして、高砂イレブンスポーツ少年団は、草加の地で7番目に誕生したチームとなります。草加市の中心に位置する環境は、多くの子供たちで高砂小がにぎわっていた頃になります。

本年は、プロサッカーチームが誕生して30年の節目にもなっております。

プロサッカーよりもはるかに長い歴史を積み重ねてきた高砂イレブンフットボールクラブ様の40周年の歴史は、かけがえのない大きな環境を作り出したと思います。埼玉県に所属するチームの中で、最大規模の選手層を維持されてる環境がその証明となります。

高砂イレブンの印象は、なんといっても太陽の輝きのようなオレンジカラーが目にとまります。瀬崎グラウンドで躍動するオレンジのユニホーム姿を見ると、とても頼もしく思います。又、チームの組織力にも驚きを感じます。

各学年毎に多くの指導者が熱心に対応し、各学年毎に保護者のサポートが充実している様子を見ていると、とても素晴らしいチーム環境と日頃より感じております。このようなチーム環境は、どのようにして成り立ってきたのか、とても興味が沸いてきます。チーム代表者である佐々木会長の人柄と、サッカーに対する情熱によるものと思います。

チーム運営にも感心する事柄があります。

多くの選手を抱える悩みにも共通しますが、少年サッカーの試合時間はとても短い為どの選手も試合に出たくてうずうずしています。

高砂イレブンの指導者は、試合の勝ち負けよりも、多くの選手に試合の楽しさを経験させる為、選手の起用には、とても細やかに選手を試合に送り出しているところが見受けられます。

高砂イレブンフットボールクラブは、草加の地で芽生えたサッカー環境を、まだまだ広く多くの少年サッカーチームに影響をもたらすと確信しております。

高砂イレブンフットボールクラブは、サッカーの戦術の様に、前へ・前へ・前へ…前進あるのみと思われれます。

さあ、次は50周年に向けてのエールを高砂イレブン各位に送ります。



祝 辞

草加市サッカー協会第四種委員会 委員長 平川 勝博
新田フットボールクラブ 代表

高砂イレブン創設40周年おめでとうございます。

40年前と言えば、私はまだ学生で、国内ではサッカーより野球の方が盛り上がっていた時代です。その時代に先見的な視野でサッカーチームを立ち上げたことに驚きの目を隠せません。

それから40年、草加市の多くの子供たちにサッカーの楽しさや技術、経験を与えてきた貴チームの活動に心から感謝を申し上げます。

この40年で草加市の少年サッカーの組織、支援体制、市内大会、リーグ戦の内容も大きく変わってきましたが、高砂さんは、昔からずっと変わらないままです。

チームカラーのオレンジは、草加の全チームでも高砂さんだけで、どこの会場でも、どの学年でも、『あ、高砂さん来ている！』と真っ先に気が付くカラーです。

私から見た高砂イレブンさんのイメージですが、常に大所帯でありながら学年間の絆もあり、楽しみながら強いチームに育っていくみたいなイメージがあります。また、夏合宿は、毎年子供たちがどこに行けば、何をすれば、何を体験させてあげれば喜んでくれるのだろうと考えて企画、実施している点は、高砂さんだけの特色です。

チーム運営におかれても毎年沢山のスタッフ、子供たちが揃っており、どうしたらこんなに毎年毎年子供たちを集められるのだろうと不思議に思います。

それは、やはり低学年のうちからチームを支えている佐々木会長や赤羽氏のご尽力があり、長年に渡り反映し続けているのだと思います。

高砂さんに入った子供は、移籍しないで卒業までずっと高砂さんです。それだけ魅力のあるチームだと私は考えています。

また、草加市サッカー協会の第四種委員会の活動においても多大なご協力を頂いており、高砂さんの協力あればこそ第四種委員会の活動は成り立っています。

これからもずっと高砂さんは10年、20年先も変わらない草加市の雄であり続けてください。今後のさらなる発展、飛躍を祈り、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞

祝 高砂イレブン設立40周年

第十九代 高砂小学校 校長 石崎 明子

高砂イレブン設立40周年を迎えられましたこと、心よりお祝いを申し上げます。

設立以来、保護者やOBの方々、コーチ陣の皆様方のご協力のもと、「スポーツを通して子どもたちの心と身体を育てる」ことを目指し、地域におけるスポーツの振興に貢献されましたことは誠に顕著であり、その熱意と努力に深く敬意を表します。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、制限されることも多かったでしょうが、チームが長年にわたり活動できるのも、監督をはじめとする指導者の皆様のサッカーに対する情熱と、それを支えてこられた保護者の皆様の協力体制が今日まで引き継がれ、このような記念すべき日を迎えられたことと思います。

高砂イレブンで活躍した子どもたちが、将来の日本の担い手として地域社会に貢献できるような人材として育っていくことを願うとともに、今後益々ご活躍ご発展されますことを祈念申しあげ、お祝いの言葉といたします。



祝 辞

高砂ヤンキース スポーツ少年団 会長 小澤 敏明

高砂イレブンフットボールクラブ創立40周年おめでとう御座います。

佐々木会長はじめ指導者の皆様、父母会の皆様中心に、永きにわたり子供達の健全育成に御尽力いただき誠にご苦労様です。

40年前に高砂小学校の通学区内には、野球のスポーツ少年団が3団体ありました。当時 初代イレブン会長になりました、故中根会長と相談して高砂バスケットとサッカー少年団・高砂イレブンが誕生しました。当時ヤンキースの関係者からはサッカーが人気になり、野球をやる子供が少なくなると反対の声もありましたが、子供達が自分でやりたいスポーツを選んでやるのがベストと考え、高砂イレブンが誕生しました。

現在ではサッカー人気が高まり、大いに発展をとげすばらしいフットボールクラブに成長しました。

今後も指導者・父母会が力を合わせ子供達の為に頑張ってください。

目先の勝ち負けにこだわらず、中学校・高等学校を通して生涯スポーツとして活躍する子供達を育ててください。

40周年を機に、高砂イレブンフットボールクラブの益々の発展を、心よりお祈り申し上げます。

おめでとうございます。

祝 辞

『創立40周年を祝して』

草加市スポーツ少年団 本部長 大野 美江子
高砂バスケットボール スポーツ少年団 代表

高砂イレブンフットボールクラブが創立40周年を迎えられましたこと、
心からお祝い申し上げます。

高砂イレブンフットボールクラブは、高砂バスケットボールと同じく、
1984年7月に高砂小学校を拠点に創立されました。

これまで、高砂小開放委員会を通じて様々な行事に協力されています。

この10年、スポーツを取り巻く少子化問題とコロナウイルス感染症の影響により、
子供たちの体力低下とスポーツ離れがすすみ、スポーツに参加する子供たちは
減少傾向になりつつあります。

そのような中で、地域社会活動をしながら、地域の皆様と力を合わせ、瀬崎中学校と
草加中学校に繋がる活動をされてきました。

少年期のスポーツの大切さを共有し、また 保護者の皆様の理解と協力で、
指導者の皆様がそれぞれの立場で、練習に大会(試合)に時間を費やし、子供たちの
夢を無限の可能性を引き出す、健全育成に努める活動を、今後ともよろしく
お願いいたします。

40周年という節目を契機に、高砂イレブンフットボールクラブの
ご活躍とご発展を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

祝 辞

高砂イレブンフットボールクラブ 副会長 植竹 正敏

高砂イレブンフットボールクラブ創立40周年、心よりお祝い申し上げます。

40周年を迎え、携わられた多くの先人の方々には計りしれない多くの困難を克服し、また並々ならぬご努力に敬意を表させていただきます。

近年においては、少子化・価値観の相違など、子供達を取り巻く環境の変化により、チームの運営も変化を求められています。

そのような状況においても、佐々木会長をはじめ、コーチ・会員の皆様のお力添えに助けられ、今日の高砂イレブンが成り立っております。

この先の10年、20年におきましても、高砂イレブンの理念であります

『子供達のため』を忘れることなく、サッカーを心から楽しめるチーム作りをして頂けることを期待しております。

最後に、高砂イレブンフットボールクラブの益々のご発展と、関係者の皆様方のご健勝・ご活躍を祈念申し上げます。



祝 辞

高砂イレブンフットボールクラブ コーチ 上岡 貴光

高砂イレブン40周年おめでとうございます。

私が高砂小3年生の時に出来た高砂イレブンFCが40周年を迎えた事が非常に感慨深く感じられます。

また、自身の出身チームでコーチングスタッフとして40周年を迎えられたことに大変感謝しております。

これも、今までの卒団生及びその父兄の方々のご協力と努力の結晶だと思います。振り返ってみると、本当に多くの方々との結びつきに支えられてきたチームであり、その歴史に身を置いた者として非常に誇らしく感じます。

40年の間に時代は変わり、価値観も多様化していますが、人は入れ替わっても【高砂イレブンらしさ】を失うことなく現在関わっている人たち、過去関わってきた人たちみんなで、次の50周年に向けて進んでいきましょう。週末は、子供たちの元気な声がいっまでも響いている素敵なチームを、いっまでも残していきましょう。

高砂イレブンは最高のチームです。

Let's do it!



祝 辞

高砂イレブンフットボールクラブ コーチ 熱田 創

このたびは、創立40周年を迎えられ、心よりお祝いを申し上げます。
この記念すべき年にスタッフとして関わられた事をととても光栄に思っております。

今回祝辞を書き記すにあたり、30周年時の祝辞を拝見させていただきましたが、高砂イレブンの変わらぬ10年後を望まれている多くのコメント通りになっており、非常に頼もしく感じました。
これも会長、副会長をはじめとする執行部のご尽力とコーチ陣の熱意、また、保護者の皆さまのご協力、そしてなにより子供たちが楽しく、時には厳しくサッカーに取り組む姿勢の結果であるに違いありません。

一方、この10年を振り返ると(もっと以前からかもしれませんが)、子供たちを取り巻く環境が、それ以前とは比較にならないほど劇的に変化している事に加え、サッカー以外の選択肢も既存スポーツにとどまらず、eスポーツと名を変えたビデオゲームやダンス、スポーツ以外の娯楽でもYouTubeやスマートフォンの若年層への普及などライバルの多さは過去とは大きな違いがあります。

このように厳しい環境の10年を経て、残念ながら消滅や規模が縮小してしまった他団体があるなか、高砂イレブンが多数の保護者に選ばれている要因の一つを私なりに考えると、保護者との良い関係性が挙げられるのではないのでしょうか。
一例では、他団体が保護者との関わりをあえて減らしている傾向が強いところ、高砂イレブンが、とりわけお母さんを積極的に練習へ参加していただくべく行っている取り組みは、もしかしたら会長はナチュラルにされていただけなのかもしれないとはいえ(笑)、ライバルとの違いを打ち出すとても良い方法だったのではないのでしょうか。

私も30周年に祝辞を寄せられた方々と全く同様に、高砂イレブンが次の10年、20年も元気なまま続いていっていただきたいと心からお祈りしております。これまでのように、ユニークさを生み出す施策を取り入れ続けていただければ、保護者の選択肢にいつも高砂イレブンが入ってくることでしょう。

次回の周年に関わる方々にも、私が今回感じた頼もしさを同じように覚えていただけるはずと想像してみると、10年後がとても楽しみでなりません。



祝 辞

高砂イレブンフットボールクラブ コーチ 高木 和広

創立四十周年おめでとうございます。

二十四年前、高砂小学校グラウンドで「僕、サッカーやらない！」と、
息子が佐々木コーチに声を掛けられた事が始まりでした。

素晴らしい指導者、スタッフに出会い、サッカーに関わることができ、
とても嬉しくおもいます。

ルールや指導方法は変化していますが、イレブンの全員参加のサッカーという
理念は変わりなく、どの子供も試合に出場しサッカーを楽しむ。

今後も、指導者として子供達にサッカーの楽しさ、厳しさを、
教えたいと思っています。



祝 辞

高砂イレブンフットボールクラブ コーチ 中村 隆廣

創立四十周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

ここまで続けて来られたのは、「子供たちのため」の理念のもと、佐々木会長をはじめ、理念に共感されたスタッフの皆様、歴代コーチ、保護者様のご尽力の賜物かと思えます。

長きに渡り草加市のサッカーを引っ張る存在としてあり続けたのではないのでしょうか。改めて敬意申し上げます。

また、このような節目の年にコーチとして関わられた事を嬉しく思います。

私はコーチとして携わってから短く、上岡コーチをはじめ先輩コーチ方よりご指導を賜りながら、遊びに来てくれた卒団生から刺激をもらい、日々、思考錯誤のなか指導している真っ只中です。

四十周年を機に、改めて私自身も向上心を持ち、日々勉強を続け、子どもたちが活動を通してより大きく成長するために、指導に取り組むよう決意した次第です。まだ一度しか経験していませんが、今後、二度、三度と無事に子どもたちを送り出せるよう、尽力してまいります。

そして、いつしか卒団した子供たちが、成長した姿で会いに来てくれる事を楽しみにしています。

最後となりましたが、これからも、多くの卒団生やそのご父兄がコーチや運営に携わり、「子供たちのため」の理念のもと、五十年、六十年と長く多くの方に応援され、愛され続けるチームになりますよう期待しています。

今後の高砂イレブンのますますのご発展を祈念いたします。

祝 辞

高砂イレブンフットボールクラブ コーチ 篠原 章稔

高砂イレブンフットボールクラブ創立40周年おめでとうございます。

私が高砂イレブンへ携わり創立の半分20年以上が過ぎました。

近年では、自然災害や未知のウイルス等々生活する上で、厳しい状態となることが多々あります。

私たち指導者は、状況を見極めながら子供たちを守らなくてはなりません。

また、サッカーだけではなく人としての人間性の指導も大切です。

高砂イレブンフットボールクラブは、その様な事も指導者ご父兄とスタッフが連携し子供たちを温かく見守るクラブだと感じています。

あと10年経てば四半世紀創立記念ですね！

その記念日目指して、高砂イレブンフットボールの益々のご発展と、

そこに携わる全員が、家族として幸せになることをお祈り申し上げます。



40年の歩み

*()監督・ヘッドコーチ

期	年度	会長	副会長	副会長	副会長	行事（夏キャンプ）
1	1984	中根建夫	島崎則男	—	佐々木一吉	設立、（清水公園）
2	1985	中根建夫	佐々木一吉	島崎則男	—	（神奈川県相模湖）
3	1986	中根建夫	佐久間総一郎	中村正弘	佐々木一吉	（栃木県那須）
4	1987	中根建夫	佐久間総一郎	中村正弘	佐々木一吉	（茨城県高萩）
5	1988	中根建夫	佐久間総一郎	五十嵐吉美	佐々木一吉	（茨城県高萩）
6	1989	中根建夫	佐久間総一郎	五十嵐吉美	佐々木一吉	（福島県）
7	1990	中根建夫	五十嵐吉美	佐々木一吉	—	（茨城県筑波山）
8	1991	中根建夫	佐々木一吉	—	—	（新潟県塩沢町）
9	1992	中根建夫	佐々木一吉	玉井善康	—	（群馬県伊香保）
10	1993	中根建夫	玉井善康	（佐々木一吉）	—	（栃木県那須塩原）
11	1994	中根建夫	玉井善康	（佐々木一吉）	（高橋紀光）	（栃木県那須塩原）
12	1995	中根建夫	玉井善康	（佐々木一吉）	（高橋紀光）	（栃木県那須塩原）
13	1996	佐々木一吉	橋場勝一	猪野篤詞	（玉井善康）	（長野県菅平高原）
14	1997	佐々木一吉	橋場勝一	猪野篤詞	（玉井善康）	（長野県菅平高原）
15	1998	佐々木一吉	橋場勝一	猪野篤詞	増田昭廣	（長野県菅平高原）
16	1999	佐々木一吉	橋場勝一	鎌瀧栄一	—	（群馬県嬬恋バラキ）
17	2000	佐々木一吉	橋場勝一	鎌瀧栄一	—	（栃木県今市市）
18	2001	佐々木一吉	橋場勝一	鎌瀧栄一	高木和広	（福島県棚倉）
19	2002	佐々木一吉	橋場勝一	高木和広	碓栄一	（福島県裏磐梯）
20	2003	佐々木一吉	橋場勝一	高木和広	碓栄一	（福島県楢葉町）
21	2004	佐々木一吉	橋場勝一	高木和広	碓栄一	（栃木県那須塩原）
22	2005	佐々木一吉	橋場勝一	碓栄一	石橋英司	（福島県棚倉）
23	2006	佐々木一吉	橋場勝一	碓栄一	石橋英司	（長野県安曇野市）
24	2007	佐々木一吉	橋場勝一	石橋英司	徳文洋	（茨城県潮来）
25	2008	佐々木一吉	橋場勝一	石橋英司	徳文洋	（福島県芦ノ牧温泉）
26	2009	佐々木一吉	橋場勝一	石橋英司	徳文洋	（長野県北志賀）
27	2010	佐々木一吉	橋場勝一	石橋英司	徳文洋	（福島県芦ノ牧温泉）
28	2011	佐々木一吉	石黒沢也	石橋英司	徳文洋	（群馬県水上高原）
29	2012	佐々木一吉	石黒沢也	石橋英司	徳文洋	（長野県木島平）
30	2013	佐々木一吉	石黒沢也	鈴木裕人	赤羽活利	（福島県棚倉）
31	2014	佐々木一吉	石黒沢也	鈴木裕人	赤羽活利	（福島県猪苗代）
32	2015	佐々木一吉	石黒沢也	鈴木裕人	赤羽活利	（群馬県万座温泉）
33	2016	佐々木一吉	石黒沢也	鈴木裕人	—	（福島県穴原温泉）
34	2017	佐々木一吉	石黒沢也	鈴木裕人	赤羽活利	（福島県棚倉）
35	2018	佐々木一吉	鈴木裕人	赤羽活利	—	（福島県さかい温泉）
36	2019	佐々木一吉	鈴木裕人	赤羽活利	—	（福島県さかい温泉）
37	2020	佐々木一吉	鈴木裕人	赤羽活利	—	（コロナ禍で中止）
38	2021	佐々木一吉	植竹正敏	赤羽活利	—	（コロナ禍で中止）
39	2022	佐々木一吉	植竹正敏	赤羽活利	—	（栃木県大金温泉）
40	2023	佐々木一吉	植竹正敏	赤羽活利	—	（長野県菅平高原）

スタッフ紹介

▼役員	佐々木 一吉	会長・監督・1年生代表コーチ
	植竹 正敏	副会長・フリーサブコーチ
	赤羽 活利	副会長・事務局・1年生サブコーチ (草加市サッカー協会第四種委員会 副委員長)
▼コーチ	上岡 貴光	ヘッドコーチ・6年生代表コーチ
	赤澤 健二	6年生サブコーチ
	秋谷 勉	6年生顧問
	熱田 創	5年生代表コーチ
	高木 和広	4年生代表コーチ
	中村 隆廣	3年生代表コーチ
	篠原 章稔	2年生代表コーチ
	多比羅 圭	2年生サブコーチ
	田中 圭二	1年生サブコーチ
	中後 仁	1年生サブコーチ
	清岡 竜二	1年生サブコーチ
	四本 隆三	1年生サブコーチ

年間参加大会

- 全日本U-12サッカー選手権大会埼玉県大会 (6年生)
- 埼玉県4種リーグ (6年生)
- 草加市サッカーフェスティバル (6年生)
- 草加市少年サッカー大会 (6年生)
- 草加FAカップ(草加市サッカー協会杯) (6年生)
- フルピッチリーグ (6年生)
- 関東招待サッカー大会 (6年生)
- 高砂カップ (6年生)
- FC平野卒業記念大会 (6年生)
- 草加市交流大会 (6~1年生 各2回) 前期 EneCleカップ
後期 J:COMカップ
- 埼玉県4種新人戦 (5年生)
- イースタンリーグ (5年生)
- 関東リーグ (5年生)
- テンワンリーグ (5年生)
- 友好杯 (5年生)
- ドリームリーグ (4年生)
- テンリーグ (4年生)
- 西町キッズフェスタ (4年生)
- なでしこリーグ (3年生)
- ナインリーグ (3年生)
- チビっ子教育リーグ (3年生)
- エイトリーグ (2年生)

最近の主な大会成績

※優勝・1位・県大会出場のみ掲載

- 2023年 西町フットボールクラブ50周年記念大会 優勝（6年生）
- 2023年 EneCieカップ 第83回草加市交流大会 優勝（5年生）
- 2023年 2022年度FC平野卒業記念大会 優勝（6年生）
- 2023年 瀬崎卒団大会2023 優勝（6年生）
- 2023年 第18回西町キッズフェスタ 優勝（4年生）
- 2023年 第53回草加市少年少女サッカー大会（市長杯） 優勝（6年生）
- 2022年 ジュニアカップU-9リーグ 優勝（3年生）
- 2022年 EneCieカップ 第81回草加市交流大会 優勝（4年生）
- 2020年 ジュニアカップU-12リーグ 優勝（6年生）
- 2020年 ジュニアカップU-10リーグ 優勝（4年生）
- 2020年 草加市サッカー協会杯（FAカップ） 優勝（6年生）
- 2020年 第25回高砂カップ 優勝（6年生）
- 2020年 第14回埼玉県第4種サッカーリーグ選手権大会 出場（6年生）
- 2020年 第14回埼玉県第4種サッカーリーグ東部南ブロック1位（6年生）
- 2019年 第17回関東リーグ（前期ブロック） 全勝優勝（5年生）
- 2019年 第12回原石リーグ 年間優勝（4年生）
- 2019年 2018年度ジュニアカップ 優勝（5年生）
- 2019年 J:COMカップ 第74回草加市交流大会 優勝（4年生）
- 2019年 2018年度ジュニアカップ 優勝（4年生）
- 2018年 第23回高砂カップ 優勝（6年生）
- 2018年 第24回ドリームリーグ 決勝大会 優勝（4年生）
- 2018年 第24回ドリームリーグ 年間リーグ1位（4年生）
- 2018年 第73回草加市交流大会 優勝（6年生）
- 2018年 第15回プログレッシブリーグ 年間優勝（6年生）

- 2018年 第72回草加市交流大会 優勝（3年生）
2018年 第9回東武鉄道杯本線沿線東京・埼玉サッカー大会 優勝（5年生）
2017年 第22回高砂カップ 優勝（6年生）
2017年 第23回ドリームリーグ 年間リーグ1位（4年生）
2017年 第71回草加市交流大会 優勝（3年生）
2017年 第71回草加市交流大会 優勝（5年生）
2017年 第70回草加市交流大会 優勝（2年生）
2017年 2016年度ジュニアカップ 優勝（4年生）
2016年 第68回草加市交流大会 優勝（3年生）
2015年 ジュニアカップ 優勝（3年生）
2015年 第67回草加市交流大会 優勝（3年生）
2015年 第7回エイトリーグ（U-8） 優勝（2年生）
2015年 第66回草加市交流大会 優勝（2年生）
2015年 2014年度ジュニアカップ 優勝（2年生）
2014年 草加市サッカー協会杯（FAカップ） 優勝（6年生）
2014年 第64回草加市交流大会 優勝（4年生）



年度別OB会員集合写真

【 1985年度（昭和60年） 】



【 1986年度（昭和61年） 】



【 1987年度（昭和62年） 】



【 1988年度（昭和63年） 】



【 1989年度（平成1年） 】



【 1990年度（平成2年） 】



年度別OB会員集合写真

【 1991年度 (平成3年) 】



【 1992年度 (平成4年) 】



【 1993年度 (平成5年) 】



【 1994年度 (平成6年) 】



【 1995年度 (平成7年) 】



【 1996年度 (平成8年) 】



年度別OB会員集合写真

【 1997年度 (平成9年) 】



【 1998年度 (平成10年) 】



【 1999年度 (平成11年) 】



【 2000年度 (平成12年) 】



【 2001年度 (平成13年) 】



【 2002年度 (平成14年) 】



年度別OB会員集合写真

【 2003年度（平成15年） 】



【 2004年度（平成16年） 】



年度別OB会員集合写真

【 2005年度（平成17年） 】



【 2006年度（平成18年） 】



年度別OB会員集合写真

【 2007年度（平成19年） 】



【 2008年度（平成20年） 】



年度別OB会員集合写真

【 2009年度（平成21年） 】



【 2010年度（平成22年） 】



年度別OB会員集合写真

【 2011年度（平成23年） 】



【 2012年度（平成24年） 】



年度別OB会員集合写真

【 2013年度（平成25年） 】



【 2014年度（平成26年） 】



年度別OB会員集合写真

【 2015年度（平成27年） 】



【 2016年度（平成28年） 】



年度別OB会員集合写真

【 2017年度（平成29年） 】



【 2018年度（平成30年） 】



年度別OB会員集合写真

【 2019年度（令和1年） 】



【 2020年度（令和2年） 】



年度別OB会員集合写真

【 2021年度（令和3年） 】



【 2022年度（令和4年） 】



会員集合写真

【 6年生 】



【 5年生 】



会員集合写真

【 4年生 】



【 3年生 】



会員集合写真

【 2年生 】



【 1年生以下 】



編集後記

十年前、三十周年の記念誌の発刊も行いましたが、あっという間の十年まさか四十周年の記念誌も作ることになるとは、思ってもみませんでした。

設立四十周年の節目を迎え、ここに記念誌を発刊出来ますことを、心よりうれしく思います。

日頃から関係者の皆様方から、並々ならぬご支援とご協力を賜わり、ここに設立四十年という輝かしい日を迎えられることを、関係者の一人として心より感謝申し上げますと共に、喜びに堪えません。

また、高砂イレブンを支えてこられた、会長、歴代のコーチ、ご父兄の皆様、心より感謝を申し上げます。

私のような者が、記念すべき今日まで十七年余り、チームに関わり続けてこられたのは、ひとえに、私の周りでサポートしてくれるチーム関係者、市内各サッカー団体の皆様方、市内協会役員の皆様方に支えられてのことです。

感謝すると共に、今後も今まで同様、高砂イレブンとの関係や協力をお願いしたいと思ひますし、そうなるためにも、今後高砂イレブンから、相応しい人が出てくることを願ひます。

本記念誌の表紙に書いた『子供達と共に走り、共に笑い、共に泣き、子供達の夢を応援し、これからも応援し続けます。』が私の想いです。

この先高砂イレブンが 五十年、六十年…百年 !? と長く、子供達に寄り添い多くの人に応援され、愛され続けるチームであり続けることを願ひます。

赤羽 活利



For PLAYERS

選手

サッカーには敵はいない。
対戦相手は敵じゃない。
自分たちの力をためし、
サッカーを楽しむための大切な仲間。
試合のはじめに相手の目を見て
しっかりと握手する。
リスペクトの証として。



For SUPPORTERS

サポーター

コーチはコーチに任せる。
レフェリーはレフェリーに任せる。
プレーは子どもたちに任せる。私たちは応援し、見守る。

For GAMES

ゲーム

常に全力でゴールをめざす。
勝利をめざす。
それがサッカーという
僕が大好きなゲームに対する
リスペクト。

リスペクト

『大切に思うこと』

For COACHES

コーチ

子どもたちに会う前には、いつも自分を振り返る。
子どもたちは大切な相手。
ちゃんとしていないとはずかしい。スマイルOK!



For REFEREES

レフェリー

子どもたちもひとりひとりりっぱな選手。
しっかり目を見て握手する。いいゲームをしようね。



— RESPECT PROJECT —



リスペクトとは…フェアプレーの原点

ピッチ上の人、
それを支え、とりまく
すべての人・ものを
互いに「大切に思うこと」と
とらえています。

リスペクト

大好きなサッカーをもっと楽しむために
互いを「大切に思うこと」
「フェアで強い」日本サッカーを目指して

日本サッカー協会、Jリーグは、
リスペクト・プロジェクトを推進しています。



●写真提供：Jリーグフォト（株）
●掲載の写真、ロゴマークなどの無断転載を禁じます。

財団法人 日本サッカー協会の公式ホームページ <http://www.jfa.or.jp/>

財団法人 日本サッカー協会
〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15) JFA ハウス
TEL. 03-3830-2004 FAX. 03-3830-2005

Jリーグの公式ホームページ
<http://www.j-league.or.jp/>

社団法人日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)
〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15) JFA ハウス 9階
TEL. 03-3830-2006 FAX. 03-3830-2007



大切に思うこと

— RESPECT PROJECT —



